

先進工業諸国では、雇用されて働く者の増加により、失働き家族が増加している。失働きか子供に及ぼす影響について、アメリカでは実証研究の結果「失働きか子供に悪影響を及ぼすとはいえない」ということが大勢の方角となっている。ところが我が国では失働きと夫婦関係についての研究は数多く行われてきたが、子供との関係についての研究は、いかに少ないのが現状である。本研究では、アメリカの実証研究や日本の既存研究を手かりに失働きか子供に及ぼす影響について分析するための枠組を示したい。これらの研究結果から、失働きの子供への影響は母親の職業環境と職業、仕事に対する態度、養育態度、夫婦関係、夫の職業、父子関係によってさまざまに変わってくるということが明らかである。

つまり、失働き・非失働きをわけず子供に対する影響を論じることは適當ではなく、種種の媒介変数を入れて考察することが不可欠である。又、子供への影響を規定する規準は子供の発達課題(個人が正しい社会適応をするために、各年齢に依りて果すべき課題)という概念が有効であろう。

以上のような観点から分析枠組を設定した。